



＜審査委員コメント＞

リニューアルした広報紙は、1日号と15日号とで訴求情報の役割を分け、住民に分かり易い発行号の使い分けとなっている。応募紙は、高齢者の生きがいと地域とのコミュニケーション方法が、読者に伝わる企画及び編集である。表紙を含め2～3面の紙面表現も上手である。住民の目を惹く紙面である。お知らせ情報も、紙面左側に大きくタイトルを表現し、視覚的な情報区分が図られている。

—制作意図（担当者より）—

杉並区では、今年4月に広報すぎなみを大幅にリニューアルしました。月3回だった発行を月2回とし、1日号は区の政策や取り組みを、15日号は“人”（すぎなみビト）を通して地域の魅力を特集する号としました。各号のコンセプトを明確にするとともに、表紙の写真を含め2面、3面にわたっての大きな特集記事を毎号組むことで、よりわかりやすく区の政策や魅力が伝わる紙面作りを心掛けています。

7月15日号は、すぎなみビトとしてシルバー世代の区民で構成する「おもちゃドクターズ」の活躍を取り上げました。区が開催した地域区民センターでの講座受講をきっかけに、おもちゃの病院「おもちゃドクターズ」を自ら立ち上げ、退職後も長年に渡り地域で活躍する姿をインタビュー形式で特集しています。片意地をはらず、自分たちのできる活動を楽しむことが、地域貢献につながり、また自分たちのやりがいにもつながっている。高齢化が進む地域社会におけるコミュニティのあり方や生き方を考えるうえでの、ひとつの好事例として区民の皆さんに受け止めてもらうことを意図しました。

構成は、1面は個性あふれるドクターズの集合写真で区民の興味を喚起し、2面、3面ではインタビューとおもちゃの病院の様子が伝わる写真を掲載、また、地域区民センターの講座が掲載される広報紙のコーナーなどを紹介することで、今後の区民の行動促進につながることを意図した特集としました。

一枚写真部門 最優秀作品 瑞穂町 広報みずほ 8月1日号



<審査委員コメント>

テーマ「涼」が一目で伝わってくる一枚。アイテムを青系で統一した演出面での工夫、子供のいかにも気持ちよさそうな表情、紙面のレイアウト等々、様々な要素がバランスよく成り立っている。表紙は広報紙の「顔」であり、こんな写真が一面であれば、住民はきっとワクワクした気持ちで記事を読むのではないだろうか。

—制作意図（担当者より）—

町営プール。それは、大型施設のプールのように目立った遊具はないけれど、行きたいときにすぐ行ける、町民にとって、夏の極楽を身近に感じることができる、町の「オアシス」です。毎年やってくる暑い夏、広報みずほ8月号の表紙として町営プールのPRを行うことで、広報を手にとっていただいた方に「涼」を感じてもらうことはもちろん、夏休みの親子の触れ合いの場として、また熱中症予防策として、町営プールを活用していただく「きっかけ」づくりができないかという意図がありました。

この写真は、夏の暑い日差しの中、透き通ったスカイブルーと澄み渡ったアクアブルーで涼やかさが増したように見える町営プールの水面（みなも）と、冷たいプールに身を任せ、浮き輪でプカプカ気持ちよさそうに「涼」を感じていた少年を撮影しました。

さらに夏の白い雲をイメージした白い文字のキャッチコピー「気持ちいいなあ、町営プールって。」を合わせて、「夏」の気持ちよさをイメージしました。

この写真を見た方に「涼やかさ」を感じてもらえるように、夏の日差しを受けてキラキラしている水面（みなも）の揺らぎと、プールに浮いて心地よさそうな少年の表情の瞬間をとらえるため、シャッター速度を高めに設定し、撮影に臨んでいます。

映像部門 最優秀作品 江戸川区

「干潟が奏でるシンフォニー ～生物の宝庫・葛西三枚洲～」

干潟が奏でるシンフォニー ～生物の宝庫・葛西三枚洲～

<審査委員コメント>

葛西三枚洲のすばらしさを区民の人たちに共感させるために、導入のカヌーの会長の訪問といい、途中の貝の水の浄化機能の紹介といい、ラストの生態系を見守る人々の声等への流れも、とても共感できました。インタビューも室内があったり、外があったり、とても巧みにメリハリがあって、飽きるどころか惹きこまれて見てしまいました。

－制作意図（担当者より）－

江戸川区の臨海部は昭和40年代から始まった、葛西沖開発土地区画整理事業によって生み出されました。海面下の区画整理という全国でも類のない手法を取り入れ、貴重な干潟(三枚洲)も保護する当時としては先進的な開発が実現した背景には、地元江戸川区民あがての願いや取り組みがありました。そこで今回の番組では、

- 1、先人の誇るべき取り組みを知ってもらうこと。
- 2、三枚洲にラムサール条約登録条件を満たす程の環境が残されていることなどその価値を広く知ってもらい、地域への誇りや愛着を高めること。

を意図して制作を行いました。

演出では、世界有数の大都市の足元に豊かな生物多様性があることの貴重さをわかりやすく、視聴者に我がこととして理解してもらうため歴史面・生物面それぞれに工夫や取材を重ねました。

また、三枚洲を来年度ラムサール条約に登録する取組が進んでおり、登録に向け放映時点で可能な気運醸成も意図しています。